

令和6年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自分のよりよい生き方についての 考えを深める道徳科」

～ 主体的・協働的な学習を通して～



滝川市教育委員会
滝川市道徳教育研究会議

発 刊 に あ た っ て

本年度も、各学校におかれましては、さまざまな教育活動の充実に向けて尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、「特別の教科 道徳」がスタートし、数年が経とうとしています。各学校においては、日々、道徳の時間の充実に向け、質の高い多様な指導方法等を取り入れる等、研究に取り組んでいることと思います。

本市においては、子どもたちの豊かな心の育成を図るため、平成１９年度から２年間は文部科学省の指定を受け、平成２１年度からは、市独自に「道徳教育推進事業」を立ち上げて実践的な研究を推進してきたところです。

令和３年度からは、これまでの研究成果を引き続き「深める、広げる」とともに本市の道徳教育の一層の充実に図るため、５か年計画で、道徳教育の要となる「道徳科の授業」に係る実践研究を推進してまいりました。本年度は、５か年研究の４年次となり、６月には滝川市道徳教育推進事業研修会を開催し、外部講師として岐阜聖徳学園大学の山田貞二教授を招聘いたしました。当日は、講師による示範授業、講演会を実施し、市内の多くの教職員に直接参観していただきました。また、その他に７回の研究会議、そして実践発表会を開催し、各学校から選出された道徳教育研究員による理論研究を基盤として、２校において研究授業を行いました。研究授業では、子どもたちが道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自己の生き方についての考えを深める姿を見ることができました。

本報告書には、研究主題に基づいた研究理論・授業実践等、研究の取組の成果が掲載されております。各学校において本書が有効に活用され、子どもたちに、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心が一層醸成されることを願っております。

終わりになりますが、本研究事業の推進にあたり、ご協力いただきました研究員の先生方、関係各位に心からお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

目 次

発刊にあたって

第1章 研究概要

・研究主題及び主題設定の理由	2
・目指す子ども像	
・研究仮説	
・研究内容	
・研究の全体構造図	3
・事業及び研究の進め方	3
・資料（参考）	5
・令和6年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿	

第2章 研究理論

・道徳科授業の質の向上	7
・道徳科における評価の在り方	11
・保護者や地域の人材（教材）を活用した指導	14

第3章 令和6年度授業実践

・滝川市立滝川第二小学校 伊藤 萌衣 教諭	17
・滝川市立江陵中学校 川畑 摩沙子 教諭	21
・各授業実践の反省 ～各研究協議より～	25

第4章 成果と課題

・令和6年度 滝川市道徳教育推進事業 研究の成果と課題	32
-----------------------------	----

参考・引用文献	36
---------	----

研究概要

研究主題及び主題設定の理由

1 研究主題

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～ 主体的・協働的な学習を通して～

2 研究主題設定の理由

グローバル化や情報化の進展など様々な要因により大きく変化し続ける現代社会において、個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造したり、他者と協働したりする力が求められている。

とりわけ、道徳科においては、主体的・協働的な学習の中で、多様な道徳的価値観に触れ、異なる考えや道徳的価値観を肯定的に受け入れ、自分の考えを更新し、自分のよりよい生き方を見つめていくことが求められる。

その具現化のためには、「心情理解にとどまったり、わかり切ったことを考えたりする授業」から「自己のよりよい生き方についての考えを深める授業」、つまり「考え、議論する道徳」への転換が重要となってくる。

そこで、本研究では、研究主題を「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」と設定し、児童生徒が道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自分のよりよい生き方についての考えを深めていくことができる道徳科を研究することとした。

目指す子ども像

本研究では、児童生徒に、道徳的価値の理解を自分との関わりで問い直し、多面的・多角的に考え、よりよい生き方について考えを深めようとする見方・考え方を育成する観点から、目指す子ども像を、

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」

と設定する。

研究仮説

上記の「目指す子ども像」を踏まえ、研究仮説を次のように設定した。

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材(教材)を活用することにより、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

研究内容

児童生徒に「自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心」を育むためには、道徳教育の要となる道徳科の授業において、主体的・協働的な学習活動を展開することが必要である。

そのためには、児童生徒の思考を深めたり、広げたりする指導過程の充実を図るとともに、児童生徒・教員・保護者そして地域の人材(教材)や体験活動を意図的・計画的に教育活動に位置づけることが大切である。

そこで、研究の対象を「道徳科の授業」とし、研究内容を次のように設定した。

道徳科授業の質の向上
道徳科における評価の在り方
保護者や地域の人材(教材)を活用した指導の工夫

研究の全体構造図

【目指す子ども像】

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、
主体的に行動しようとする子ども」

【研究主題】

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～ 主体的・協働的な学習を通して～

【研究仮説】

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材(教材)を活用することにより、自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

【研究内容】

道徳科授業の
質の向上

道徳科における
評価の在り方

保護者や地域の人材
(教材)を活用した指導

事業及び研究の進め方

1 事業名

滝川市道徳教育推進事業（令和３年度～令和７年度） ５か年研究４年次

2 事業のねらい

本市が推進してきた「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業(平成19～20年度)」・「滝川市道徳教育推進事業(平成21～令和2年度)」の成果を「広げる・深める」ことを通して、本市における道徳教育の更なる充実に資することをねらいとする。

- (1) 道徳科授業の質の向上
 - ・自分のよりよい生き方についての自覚を深める指導の工夫（教材の効果的活用を含む）
- (2) 道徳科における評価の在り方
 - ・子どもによる自己評価と教師による評価
- (3) 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導
 - ・保護者と連携した「子どもの心を耕す」取組の充実
 - ・地域の教育力の積極的な活用（「はーとふる」「きたものがたり」の活用を含む）
- (4) 研究成果の還流・発信
 - ・実践発表会の実施
 - ・実践資料の各学校への配布と滝川市教育委員会 HP 掲載による道徳科授業の実践内容に係る保護者や地域に向けた発信

3 事業及び研究の進め方

- (1) 滝川市道徳教育研究会議の設置

本事業における研究を推進するために、「滝川市道徳教育研究会議」（以下、研究会議）を設置する。
- (2) 研究会議は、市内小・中学校教員 9 名（小学校 6 名、中学校 3 名）と事務局（教育委員会職員）により構成される「滝川市道徳教育研究会議」を設置し、研究を推進する。
- (3) 研究会議の活動

道徳科に係る理論研究を行う。

授業実践を通して研究仮説の検証を図る。

令和 5 年度～令和 7 年度の 3 年間で 3 校区での研究授業を実施する。

令和 5 年度・・・明苑中学校区（実施校：明苑中学校、東小学校）

令和 6 年度・・・江陵中学校区（実施校：江陵中学校、滝川第二小学校）

令和 7 年度・・・開西中学校区（実施校：開西中学校、西小学校）

令和 5 年度から変更、2 年次までは校区の指定なし

実践発表会を開催して研究成果を還流・発信する。また、実践資料を作成し、各学校に配布するとともに、滝川市教育委員会 HP にも掲載する。

4 令和 6 年度研究推進の重点（令和 5 年度の成果と課題より）

- (1) 『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」の検討
 - ・児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問
- (2) 道徳科における評価の在り方
 - ・子どもによる自己評価と教師による評価
- (3) 学校、家庭、地域連携の要となる「特別の教科 道徳」の充実
 - ・「学級通信」や「教科書」等を活用した双方向の情報・意見交流
 - ・外部講師となり得る人材のリスト化(外部講師バンクの作成)

5 児童生徒の変容を把握するための手だて

- ・滝川市道徳教育研究会議作成「道徳アンケート」の実施
- ・計画的な児童生徒の観察
- ・各校の自己点検、自己評価
- ・感想文、ワークシート
- ・児童生徒に対するアンケート
- ・保護者へのアンケート
- ・自校内はもとより、学校間、校種間を越えた教師の話し合い など

6 本事業における道徳科の授業公開の実施計画

(1) 研究会議による公開授業研究

各研究員が研究理論に基づき公開研究授業を行うことで、研究主題の具現化を図る。

7 その他

- (1) 本研究に滝川市道徳教育推進事業研修会において岐阜聖徳学園大学教授山田貞二氏から学んだことを取り入れ、理論研修をした上で実践を行い、研究成果を市内に水平展開していく。

資料(参考)

- 1 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編(文部科学省)
- 2 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編(文部科学省)
- 3 平成 29 年度 小(中)学校教育課程編成の手引(北海道教育庁学校教育局義務教育課)
- 4 令和 2 年度 小(中)学校教育課程編成の手引(北海道教育庁学校教育局義務教育課)
- 5 令和 3 年度 小(中)学校教育課程編成の手引(北海道教育庁学校教育局義務教育課)
- 6 「特別の教科 道徳」の充実に向けて(北海道教育庁学校教育局義務教育課)
- 7 「特別の教科 道徳」の評価について(北海道教育庁学校教育局義務教育課)
- 8 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード(光村図書出版株式会社)
- 9 道徳科「深い学び」のための内容項目ハンドブック(日本文教出版)
- 10 ひとつのひろば(日本文教出版)
- 11 中学校 道徳の授業がもっとうまくなる 50 の技(明治図書出版)
- 12 中学校道徳授業 発問言葉かけ大全(明治図書出版)
- 13 WHY でわかる HOW でできる 中学校道徳授業アップデート(明治図書出版)

令和 6 年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿

< 研究員 >

滝川第一小学校	水 本 王 典	東小学校	北 祐 輔
滝川第二小学校	伊 藤 萌 衣	江陵中学校	川 畑 摩沙子
滝川第三小学校	神 野 圭 佑	明苑中学校	運 上 颯 紀
西小学校	半 澤 雅 人	開西中学校	細 井 美樹子
江部乙小学校	田 中 洋		

< 運営者 >

滝川市教育委員会 教育長	田 中 嘉 樹
滝川市教育委員会 教育部指導参事	福 田 善 之
滝川市教育委員会 教育総務課主査	小 西 和 真
滝川市教育委員会 教育総務課主事	大 西 力 斗

研究理論

・道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」～

児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問

児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動する心をはぐくむためには、道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが大切である。そうした学習活動を促す上で、「発問」の質を向上させることは欠かせない要素といえる。

ア．（思考の）土台作りの発問

・ねらいとする道徳的価値に関わり学習テーマを設定する（情報を共有する）ための発問

イ．中心発問

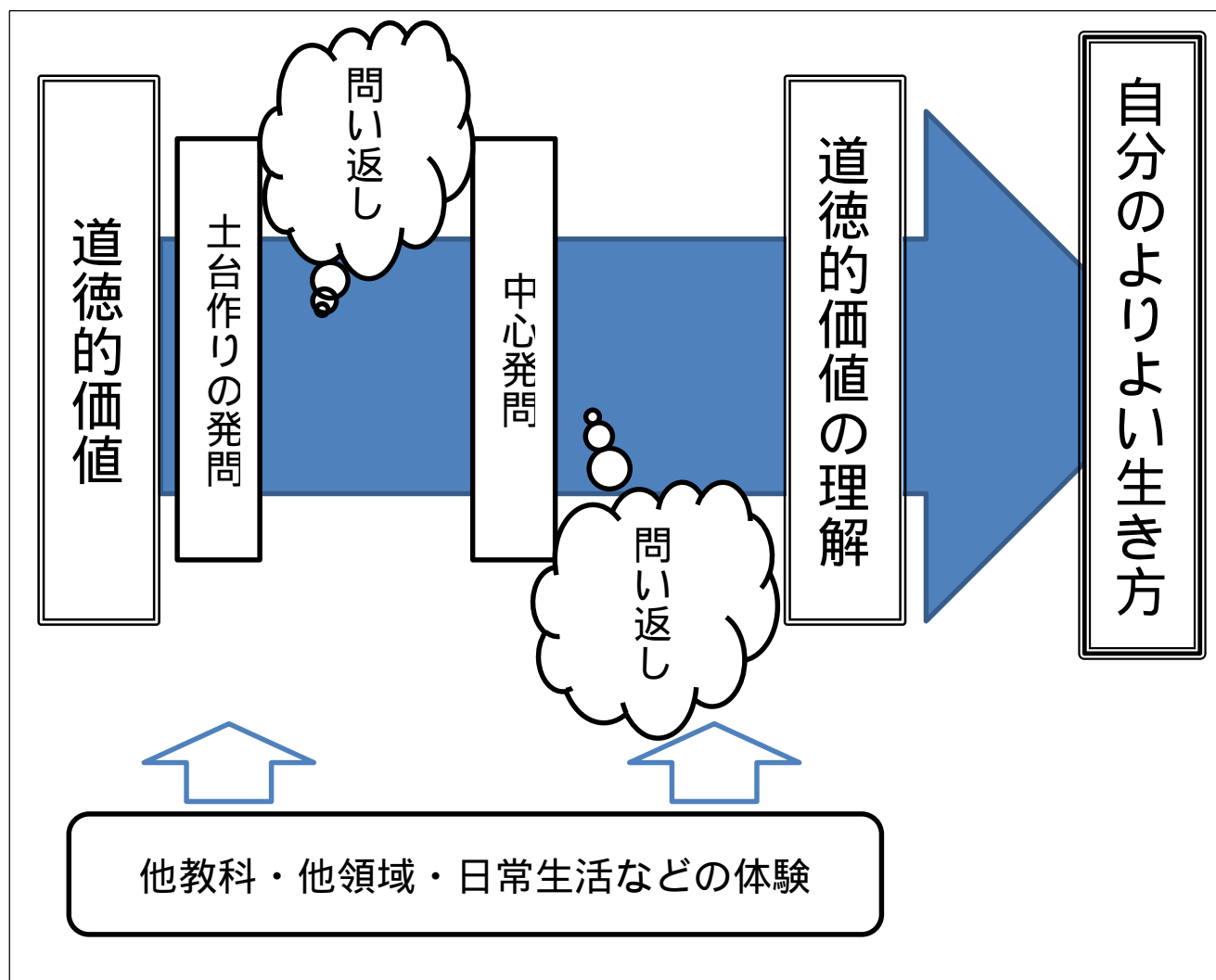
・ねらいとする道徳的価値に迫るために「決め手」となる発問

ウ．問い返し

・中心発問に向かうための発問

・思考を深めるための発問

【１単位時間の授業における発問のイメージ】



【令和6年度実践例】滝川第二小学校

自分の周りで起こる出来事から考えさせる発問により、学校生活の中から自分事として、考えることができていた。また、交流で他者の意見を聞いたことで、新たな気づきをもち、考えを深めることができていた。児童から様々な意見が出てくる中で、教師側がどこを拾い出すのが明確にしておくことが重要である。



【令和6年度実践例】江陵中学校

「もし自分だったらどんな気持ちで天井を見つめるだろう」という発問を通じて、生徒は状況を自分に置き換えて捉えることができた。生徒にとって「首から下が麻痺する」という状況は非常にイメージしづらいものであったが、その中でも自分から発言することができていた。作品や年表、写真などの情報を提示したことで、より考えが深まった。

参考（令和2年度までの実践より）

1. 児童生徒の思考を深める発問の工夫

（1）学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

児童生徒の道徳的価値の理解を基に、道徳性を養うためには、教材の道徳的価値を自らの生き方と関連づけて、考えさせることが必要である。そのためには、学習指導過程の特質を踏まえた教材の活用と合わせた発問の工夫が大切である。

導 入

<ねらいとする道徳的価値への方向付けの段階>

- ・道徳的価値に意識を向ける。
- ・主題に対する興味や関心を高める。
- ・学習に向かう雰囲気をつくる。

【 留 意 点 】

- ・道徳的価値が自分とかかわりがあるという意識をもたせる。
- ・考えるための視点をもたせる。

○教材提示の工夫

- ・アンケート調査の結果の提示
- ・絵画、写真、実物
- ・音声や音楽
- ・新聞記事や作文、詩
- ・地域素材、実験観察 等

- ・興味、関心を喚起させる発問
- ・資料に関する発問や説明
- ・体験を振り返らせる発問
- ・自分を振り返らせる発問 など

展 開

< 中心的な教材によって道徳的価値についての自覚を深める段階 >

- ・教材の中の登場人物を通して、道徳的価値を追求し、把握する。
- ・多様な考え方、感じ方に出会う。
- ・自分の生活、生き方、在り方を振り返る。

【 留 意 点 】

- ・多様な考え方、感じ方を引き出すための発問を行う。
- ・登場人物に同化させ、自分の考え方や感じ方を表現できるようにする。
- ・自分自身を自覚させるようにする。

○教材提示の工夫

- ・読み物教材の読み聞かせ
(スライド等での提示)
- ・教材の分割提示
- ・教材の繰り返し提示
- ・VTRの活用 など

○思考を深める工夫

- ・自分の考えを書く活動
- ・ペアでの対話
- ・小集団での話し合い
- ・座席配置の工夫
- ・スムーズな思考を促す板書の工夫 など

- ・教材中の事実や場面、状況を問う発問
- ・登場人物や場面についての感想、判断、意見などを問う発問
- ・児童生徒の発言や反応を生かした発問
- ・思考に揺さぶりをかける発問
- ・人物の心情に迫る発問 など

終 末

< ねらいとする道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、今後につないだりする段階 >

- ・道徳的価値を確かめ、整理し、まとめる。

○終末の工夫

- ・感想の発表
- ・教師の説話
- ・書く活動
- ・補助教材の提示 など

【 留 意 点 】

- ・望ましい行為への決意表明などは行わないようにする。
- ・児童一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるような工夫が必要である。

- ・今日の授業についての感想を問う発問
- ・自己の変容や気づきについて問う発問
- ・実践への意欲化を図る発問 など

(2)「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

展開において、児童生徒の思考に揺さぶりをかけたり、人物の心情に迫らせ、教材に含まれている道徳的価値に気づかせたりするためには、教師の発問が重要であり、次の点に留意して発問を構成することが大切である。

教材に回答が記述してあることを聞くだけの発問構成をさける。中心発問はねらいとする道徳的価値について考える切り口に関わるものとして設定する。

行動の仕方だけを考える発問はさけ、行動の根拠となる心の在り方に関する発問を設定する。

読み物教材において、教材中の副詞や副詞句に留意して発問を構成する。行動は動詞で表現されるが、内面的な心の動きを表現するのは副詞や副詞句である。

例) 下線の部分に注目して、ねらいにせまる発問をする

・・・夕焼けの光の中で、祖母の背中が幾分小さくなったように見えた。

発問「祖母の背中が『幾分小さくなったように』見えたのは、主人公の心にどのような思いがあったためだろう？」

道徳的価値の自覚を深める「展開」における発問例

1 展開前段～中心教材を通して価値を追求させる段階～	
ア 道徳的心情を問う発問	「～の場面での主人公は、どんな気持ちですか？」
	「～の時、主人公はどう感じましたか？」
	「主人公の心は、どうなりましたか？」
イ 道徳的判断力を問う発問	「主人公は、そのことをどう考えましたか？」
	「主人公は、どんなことがわかりましたか？」
	「主人公は、どちらを選ぼうとしたと思いますか？」
ウ 道徳的態度を問う発問	「主人公は、どんな生活をめざしましたか？」
	「主人公は、どんなことを心がけていますか？」
2 展開後段～価値を主体的に自覚させる段階	
ア 欠けていた面に目を向けさせる発問	「今までの自分の～に対する考え方で足りなかったと思うことはありますか？」
イ 直接経験から学ばせる発問	「～したとき、自分も悩んだり、迷ったりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
ウ 間接経験から学ばせる発問	「～について、今までに人から聞いたり、本で読んだりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
エ プラスやマイナスの経験を引き出す発問	「～について、今までにできたことや、できなかったことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
オ 主人公と比較して内省させる発問	「主人公と自分を比べて、違ったことや、新しく気が付いたことはありますか？」
カ 先人の行いから学ぶ発問	「～から私たちが学ぶことは、どんなことですか？また、それを生かすには、どんな心がけが大切だと思いますか？」

・道徳科における評価の在り方

子どもによる自己評価と教師による評価

子ども自身による評価、子ども同士による評価、教師による評価等、様々な方法で、子どもの自己評価を促し、学びを意味付けしたり、学んだことを自分の生活や行動につなげたりすることが重要である。

評価する対象は、学んだ内容、学び方、学びの道筋等、自分の学びについての様々な事柄が考えられる。

このように、評価に係る方法（どのように）や対象（何を）、タイミング（いつ、どの場面では）は様々であるが、子どもの発達段階や進捗状況に応じて、教師は、目的や意図をもって、それらを取捨選択したり、組み合わせたりしながら子どもによる自己評価の活動場面や教師による評価（見取り）の場面を設定する。

教師による評価（見取り）

【評価基準】

ア．一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

例)・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。

・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。

・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか。

イ．道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか

例)・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。

・道徳的な問題に対して、自分の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか。

・道徳的価値を実現する難しさを自分事として捉え、考えようとしているか。



【令和6年度実践例】滝川第二小学校
心の数直線を活用することで、児童自身が自分の考えの変容を捉えることができた。また、振り返りの視点を明確に提示することで、子どもたちは本時の内容やねらいを理解したうえで、迷うことなく自己評価を行い、ワークシートに自分の考えを記入することができた。

【令和6年度実践例】江陵中学校

ワークシートの活用により、一人ひとりが個人思考やペア交流を通じて自分の考えを持つことができ、生徒の自己評価や指導者による見取りにつながった。また、生徒の振り返りの中で、教師が大切なポイントを引き出すことで、思考が深まった。



参考（令和2年度までの実践より）

1. 道徳科における言語活動の充実

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

（1）道徳科の授業における言葉

道徳科の学習では、中心的な教材を活用し、児童の体験や教材に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習の中心となることが多い。その意味からも、道徳科の授業における言葉の役割はきわめて大きい。

国語科では言葉にかかわる基本的な能力が培われるが、道徳科の授業では、このような能力を基本に、教材や体験などから感じたことや考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる考え方に接し、協働的に議論したり意見をまとめたりする。

具体的には、

- ・教材の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。
- ・友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったり書いたりする。
- ・学校内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳科の授業において言葉を用いて交流したりする。

このような活動の中で、国語科等で培った言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

したがって、道徳科の授業においては、このような言葉の能力を総動員させて学習に取り組ませることが、ねらいを達成する上で重要である。

（2）自分の考えを基に書いたり話し合ったりする（表現する）機会の充実

話し合いは道徳科の授業によく用いられる指導方法であるが、話し合いを深めるためには、児童生徒一人一人に自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア 自分の考えを明確にさせるための書く活動

教材から感じた自分の思いや考えを、自己の生活、体験、知的経験等に引き寄せて明らかにするためには、「書く」という活動が大変重要である。

書く活動により、児童生徒が自ら考えを深めたり、あいまいであった考えを整理したり

する機会となる。

したがって道徳科の授業においては、自分の考えを明確にさせるための書く活動に必要な時間を十分に確保することが大切である。

また、書く活動により、児童生徒の感じ方や考え方をとらえ、個別指導を進める重要な機会にもなる。更に、1冊に綴じられた「道徳ノート」などを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めるとともに、その変容を見取ることが可能となる。

イ 個々の考えを広げ、深めるための話し合い活動の工夫

道徳科の授業において、自分の思いや考えをより多面的にとらえたり、新たな考えに出会い深化させたり、自己の葛藤の中から新たな価値観を見いだしたりしていくためには、話し合い活動が重要な役割を果たす。

話し合い活動を深めるためには、意見を出し合う、まとめる、比較する等の目的に応じて場の設定等を工夫することが大切である。具体的には、

- ・児童生徒同士の顔が見えるような座席配置を工夫する。
 - ・グループやペアによる話し合いを取り入れる。(話す機会が増え、多くの発言を引き出すことができる)
 - ・同じ考えをもつ子ども同士が集まるように座席の移動を行い、一人一人の立場を明確にして話し合う。
- などの工夫が考えられる。

道徳科の授業における話し合い活動は、友達との話し合いにより自分なりの思いや考えが深まり、道徳的価値の自覚につなげていくことが大切である。そのためには、学級の中に全ての意見を受け入れる温かい風土が確立されていることが前提となる。

2. 道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1)「書く活動」の役割とねらい

書くことは、教材との出会いで生じた自身の思いや考えを深めたり、整理したりすることにつながる。また、書く際には、論理的な思考力や適切な判断力が求められ、それらの能力の育成にもつながる。そして、書くという自己を表現する活動によって、自分の考えや立場を明確にすることもできる。そして、書いた内容は周囲の人たちと共有し、共通のものとすることもできる。

本研究では、これらを「書く活動」の役割・ねらいとおさえる。

(2)「話す活動」の役割とねらい

話すことには、情報伝達の役割がある。また、他者に対して、自己についての理解をうながすねらいもある。そして、伝達や交流によってよりよい考えを生み出すという意味合いもある。

本研究では、これらを「話す活動」の役割・ねらいとおさえる。

◆「書く活動」の役割とねらい

- ①自らの考えを深めたり、整理したりする。
- ②論理的な思考力や適切な判断力を育成する。
- ③自分の考えや立場を明確にする。
- ④周囲の人たちと共有し、共通のものとする。

◆「話す活動」の役割・ねらい

- ①情報伝達のねらいがある。
- ②他者に対して、自己について理解をうながす。
- ③伝達や交流によってよりよい考えを生み出す。

「書く活動」と「話す活動」は、いずれも主として言語による表現活動である。前者は文字言語によって、後者は音声言語によって行われる。

学級で話し合うとき、事前に自分の考えなどを一人ひとりに書かせる。このことは、自分の考えを持つ機会になると同時に、「話す活動」に参加するための前提となる。

また、子どもたちは互いに話すことによって、違った考えや見方を知ることができ、新たな知識を習得することができる。この活動を通し、初めに考えたことが、その後に修正される可能性が生じてくる。

話したあとに改めて「書く活動」を組み入れることにより、これまでの学習を振り返り、自分の考えの変容を自覚することができ、自己評価をする機会になる。

3. 「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

「書く活動」と「話す活動」が道徳科の授業の中で意図的・計画的に仕組まれ、それぞれの活動を充実させることにより、道徳科のねらいである、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深めることにつながると考える。このような指導過程を基本とし、道徳科の授業を行うことによって、目指す子ども像「自己の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」に迫っていきたいと考える。

・保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

児童生徒に自他の生命を大切にするなど豊かな心をはぐくむためには、様々な人たちとのかわり合いの中で、多様な生き方・考え方を学ばせることが必要である。

そのためには、道徳科の授業において保護者や地域の方などを外部講師として招き、生き方や生命に関する貴重な経験など、主題や中心教材にかかわって話をしてもらい、質問を受けてもらうなどの指導の工夫が求められる。

参考（令和2年度までの実践より）

1. 学習指導過程への位置付け

保護者や地域の方などの支援による指導を充実させるためには、次の視点で学習指導過程を工夫することが大切である。

導入

- ・導入において保護者や地域の方をお願いする話の内容などについては、主題について児童生徒が興味や関心をもったり、課題意識を高めるよう配慮することが大切である。

展開

- ・保護者や地域の方の語りや説話を、展開における中心教材として位置づける場合は、児童生徒たちの話し合いが深まるよう、保護者や地域の方などから問いかけを入れていただくことが効果的である。
- ・保護者や地域の方の講話などを、補助的な教材として位置づける場合は、主題にかかわる事柄を補足したり意味付けをすることもできる。話し合いを深めるためには、保護者や地域の方が直接、児童生徒たちの討議に参加することも考えられる。

終末

- ・児童生徒に寄せる保護者や地域の方の愛情は、児童生徒の心に響き感動的な話としていつもまでも心に残る。終末における保護者や地域の方の説話などを、1時間のまとめとして活用したり、今後の発展につなげることが大切である。

2. 保護者や地域の方を迎えるための配慮事項

保護者や地域の方の支援を得るにあたって次のことに配慮することが必要である。

道徳授業の特質

- ・保護者や地域の方を招いた授業を授業改善の一つととらえ、道徳科の特質を押さえ、有意義なものとなるように工夫する。

事前打ち合わせ

- ・保護者や地域の方から協力をいただく目的、授業のねらいと参加していただく形態などについて、事前に打ち合わせをしておくことが大切である。

あいさつやお礼

- ・保護者や地域の方に対する接し方やあいさつ、授業後のお礼の手紙など、児童生徒に対するきめ細やかな指導が必要である。

3. 道徳授業の発信と双方向の取組

児童生徒の豊かな心をはぐくむことは、1時間の授業のみで完結することはありません。また、学校における指導のみで十分ではないことも言うまでもない。学校と家庭が同じ方向を向き、子どもの豊かな心を育てる思いを共有しながら道徳教育を推進することによって、初めて成果が表れるものと考えます。

そのためには、学校で行っている道徳授業に関わる積極的な情報の発信と、教師と保護者双方の取組の推進が求められる。

第3章

令和6年度 授業実践

道徳科学習指導案

日 時 令和 6 年 9 月 2 7 日(金) 3 校時

児 童 滝川市立滝川第二小学校 6 年 2 組 2 3 名

指導者 教諭 伊藤萌衣

1. 主題名：本当の「自由」とは 高学年 A—善悪の判断、自立、自由と責任

2. ねらいと教材

(ねらい) ジェラルール王子に必要なだった考え方について話し合うことを通して、自由と自分勝手の違いについての考えを深め、自律的で責任のある行動を進んでしようとする判断力を育てる。

(教材名)「うばわれた自由」(小学どうとく 6 はばたこうあすへ 教育出版)

3. 主題設定の理由

(1) 児童(生徒)の実態 (児童(生徒)観)

項 目			ア	イ	ウ	エ
A	1	自分の考えを大切にし、責任をもって行動している。	8	1 5	0	0
	2	自分の気持ちをごまかさず、みんなと明るく生活している。	1 0	9	4	0
	3	落ち着いた生活を送るように心がけている。	1 1	1 1	1	0
	4	自分の長所を知り、自分の良さを生かそうとしている。	3	1 4	6	0
	5	目標をもって、何事にもあきらめず最後まで努力している。	1 2	9	2	0
	6	正しい考えをもって、物事に取り組もうとしている。	6	1 5	2	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

最高学年としての自覚をもって生活する様子が見られ、学校のきまりを意識することもできるようになってきた。その反面、周囲に注意されると素直に受け止められない様子も見られる。児童は、自由＝なんでもやっていいという考えになりがちである。極端に自分勝手な自由となる行動をする児童はいないが、今後環境が変化しながら成長していく中で、「本当の自由」を考えて生活に活せる力を育てたい。また、責任ある行動についても本単元を通して考えを深めることにより、更に一段階成長させたい。

(2) ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

自分をより高めていくためには、自由を大切にしながら、善と悪を自律的に判断し、責任を自覚して行動することが求められる。なにものにもとらわれない自由な考えや積極的な行動が、児童を大きく成長させる。もちろん、正しいと信じることをやりぬくことは困難なときもある。周囲に流されたり、自由の捉え違いをしたりして、相手や周りのことを考えずに自分勝手にふるまってしまうこともある。それゆえ、自分勝手と自由との区別や、自由には責任が伴うことを理解することが必要なのである。自分勝手な自由を押しつけるのは傲慢である。本当の自由とは、他人の自由を尊重し、規律ある行動を伴うものである。自分の意思で判断し行動しなければならない場面や、自分勝手に行動してしまったときの場面を考え合わせながら、自律的かつ責任のある自由について理解させたい。

(3) 教材について（教材観）

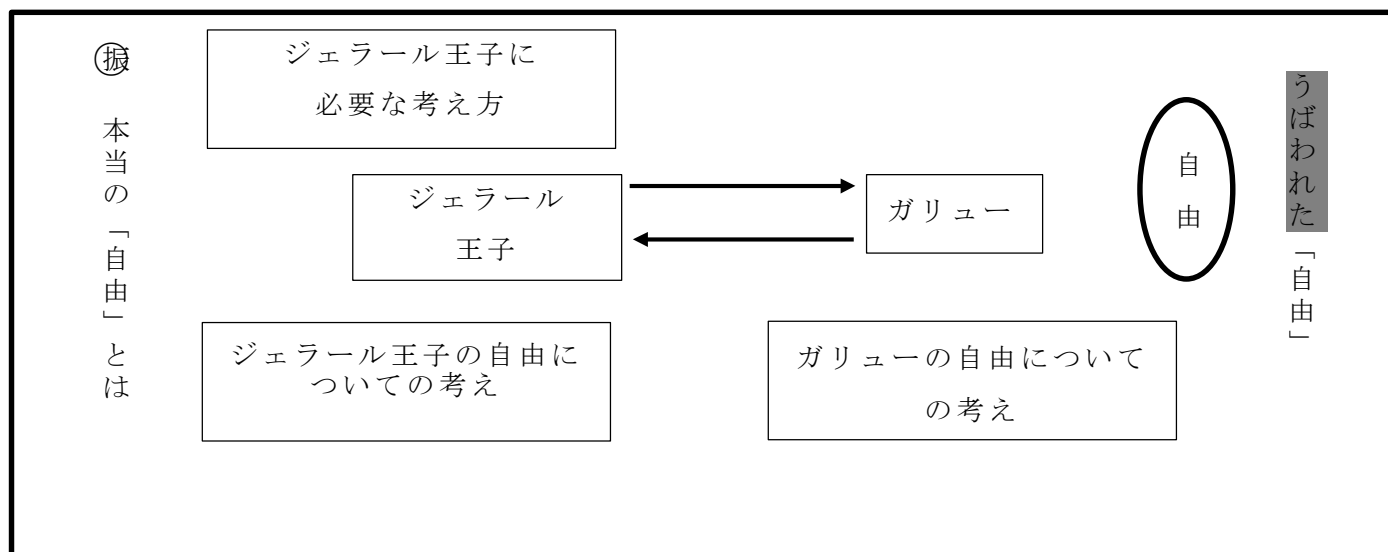
自分の思いのままに行動することが自由であると思っているジェラル王子は、それをいさめる森の番人ガリューのことをきかず、ガリューの自由を奪ってしまう。その後、ジェラルは自由を捉えちがえたせいで国内を乱し、自らの自由を奪われる。自分勝手な行動が、かつてガリューの自由を奪い、今や自分の自由を奪ったことに気づいたジェラルは、ようやく本当の「自由」とは何かについて考え始める。

4. 本時の展開

段階	主な発問 (○土台、●問い返し、◎中心)	予想される児童の 発言・思考	◆評価 教師の手立て
導入 5分	教材文は事前読みを行う。 ワークシートに感想を書く 1. 本時のテーマの確認 自由について 2. 自由と感じるのはどんなときか 発表する。	何もしなくていい・何をして もいい 遊んでいるとき	・ 何度か教師側か ら範読を行う。 ・ 「自由」とは何 かイメージを持た せる。
展開 前半 15分	3. 事前に読んだ「うばわれた自由」のあらすじを確認する。 2人の自由の考え方について確認する。 4. 教材の感想を交流する。 5. 今日の授業で話したいことを考える。 6. ○どちらの考えに共感するか心の数直線を使って表す。 7. ●なぜガリユーは自分が捕まるかもしれないのに、ジェラルール王子にそこまで言ったのでしょうか。	・ ジェラルール王子がわがまま だと思う・ガリユーの勇気が すごい ・ なぜジェラルール王子はわが ままな行動を続けてしまった のか・なぜガリユーは自分が 捕まってしまうかもしれない のに、説得を続けたのか。 ・ ジェラルール王子のことを思 っているから・王子として気 がついてほしいから・責任感 があるから。	・ ガリユーの行動 とジェラルール王子 の行動、状況につ いてデジタル教科 書を活用して把握 させる。 ・ ガリユーの責任 ある行動・自由の 考え方に着目させ る。
展開 後半 20分	8. ◎自由なことはだめなことなの でしょうか 9. ○今日から規則や決まりを必ず 守りなさいという社会になったら どうですか。	・ だめではないけど・・・ ・ 自由すぎるのはだめだと思 う。 ・ 苦しくなってしまう ・ 楽しくない	・ 許される範囲の 自由について考え させる。 ・ 自分事として考 えさせる。

	10. どちらの考えに共感しますか。 11. ジェラルール王子にはどのような考えが必要だったのでしょうか。	・ きまりをしっかりと守った上で自由に過ごすこと。	・ 互いの自由を保障するために決まりがあるという考えに気づかせたい。
終末 5分	12. 学習を振り返る。 ○今日の学習で、「本当の自由」について考えたことや、気づいたことを書きましょう。		振り返りの視点を提示する。 ◆本当の自由について、振り返りの視点を意識して欠くことができるか（ワークシート）

5. 板書計画



《引用参考文献》

- ・ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編
- ・ 教育出版 小学道徳 6 はばたこう明日へ 解説・展開編

【補助教材】・ワークシート

道徳科学習指導案

日 時 令和6年10月30日（水） 4校時

生 徒 滝川市立江陵中学校1年1組 32名

指導者 教諭 川畑 摩沙子

1. 主題名「生きることの素晴らしさを感じて」 中学1年 D-22よりよく生きる喜び

2. ねらいと教材

〈ねらい〉絶望からはい上がって絵を描き続ける主人公の生き方に共感し、困難や障がいを乗り越え、人間としての誇りを持って、よりよく生きて行こうとする態度を育てる。

〈教材名〉「花に寄せて」（新訂 新しい道徳1 東京書籍）

3. 主題設定の理由

（1）（生徒の実態）

本授業を行うにあたり、ねらいとする価値に対する生徒の実態を把握するため、道徳性に関するアンケート調査を実施した。本時に関連する項目の結果は次の通りである。

項 目			ア	イ	ウ	エ
A	3	自分の長所を知り、自分の良さを生かそうとしている。	28	4	0	0
	4	目標をもって、失敗を恐れず何事にも努力している。	17	13	2	0
D	19	自分の命、他の人の命を大切にしている。	1	14	12	1
	20	自然や動物・植物を大切にしている。	3	11	13	1
	21	美しい音楽や絵画にふれたときに感動することがある。	5	16	7	0

ア…いつもしている、そのとおりだ。

イ…だいたいしている、だいたいそのとおりだ。

ウ…あまりしていない、あまりそうではない。

エ…全然していない、全然そうではない。

中学校に入学して半年が経ち、学校生活にも慣れ、概ね落ち着いた生活を送ることができている。学級全体の雰囲気としては、明るくとても素直な生徒が多い。アンケート結果からも分かるように、学級の大多数の生徒が自分の長所を知り、自分の良さを生かそうとしている生徒が大多数であり、目標をもって努力していこうとする前向きさを持ち合わせている。学習に対しても意欲を持って取り組む生徒は多いが、与えられることに慣れてしまっている生徒が見受けられる現状もある。自他の命を大切にしていると答えた生徒は学級全体の4割程度おり、これは困っている生徒に対してのフォローができる風土も醸成されてきていることにつながっていると考え。今回の題材を通して、現状に満足するのではなく、苦しいことや困難から目をそらさず立ち向かう心の強さ、前向きに生きていく心情を育てたい。

(2) ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

まず、自分だけが弱いのではないということに気づかせ、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけるということに目を向けられるよう指導する。また、生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという自信をもつことで自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるよう指導したい。

(3) 教材について（教材観）

体育教師である星野富弘さんは、クラブ活動の指導中実技の実演をしたところ、首から落ちる事故に遭い、頸椎を損傷する大けがを負った。首から下の自由を奪われてしまい絶望の淵に立たされた星野さんだが、口に筆を咥え文字や絵を描き始めたことをきっかけに、生きる希望を取り戻していく。

本人の不断の努力はもちろんのこと家族の愛にも支えられ、多くの作品を描き続け個展を開催し、多くの人々に感動を与える星野さんの生き方に触れ、自分の心の弱さも感じ取らせ、よりよく生きる喜びを得るために大切なことは何か考えさせて前向きに生きていく心情を育てたい。

3. 本時の展開

段階	主な発問 (○土台、●問い返し、◎中心)	予想される生徒の発言・思考	教師の関わり ◆評価、 <u>教師の手立て</u>
導入 15分	・星野さんの絵を描く姿、作品の画像を見て、あらすじの確認をする。 ・印象に残った（感動した）場面や言葉をペアで交流し、発表する。 ○けがをしたとき、星野さんはどのような気持ちだったかを想像し発表する。 「もし自分だったらどんな気持ちで天井を見つめるだろう」 ・課題を設定する。 「なぜ、星野さんの作品は多くの人を感動させるのだろう？」	・口で絵を描いていてすごい・展覧会を開くまで頑張ったのがすごい・困難を克服した・大けがをして大変だった ・絶望している ・弱気　・生きるのが辛い　・死にたい　・でも、生きたい	・本文の事前読み、感想記入まで事前に行う。 ・ICT の活用 ・星野さんの「すごさ」と「苦悩」に分類し、課題設定に結びつける。 ・心情の状況を把握させる。苦悩、絶望に着目させる。
	・初期の作品と今の作品を提示し、感じたことを発表する。		・苦悩、努力の跡を想像させ、作品だけでなく心情の変化に目を向けさせる。

展 開 前 半 1 7 分	○「星野さんは多くの人からの感想をどのように感じているのだろう」 ペアで交流→発表 ◎星野さんの作品が多くの人に感動を与えるのはなぜか、を考える。 個人思考→4人グループ→発表	・うれしい ・さらなる意欲 ・頑張ってきてよかった、報われた ・詩がよいから ・困難や障がい乗り越えた力強さがあるから ・作品に力があるから	・星野さんが個展を開く前に感じていた不安や開催中の心の動きに着目させる。 ・作品の良さだけではなく、星野さんの生き方に着目させ、価値に迫る。
展 開 後 半 8 分	○「何が星野さんにとっての生きる喜びなのだろう？」 個人思考→4人グループ→発表 ●星野さんは認められることを期待していたのだろうか。 ・星野さんの生き方への共感度を心 の数直線で表す。	・絵を描くこと ・自分のしたことが認められること ・喜びを得るために、苦しみを乗り越える。 - だからこそ、得られる喜びがある。	・展覧会開催時の不安感や葛藤する日々を踏まえさせる。また、認められることを自分から望んでいたわけではないところに着目させ、価値に迫る。
終 末 1 0 分	○生きる喜びについて考えたことをまとめ、ワークシートに記入する。 ・数名発表する。	・弱い心に負けない - 強さが大切 ・どんな状況でも自分にできることを見つけた - い・挑戦すること	・授業の振り返りを含めて書かせる。 ・自分の心の弱さや強さを踏まえさせる。 ・数人を指名し、発表、共有する。 ◆人々に感動を与える絵を描き続ける主人公の姿に共感し、よりよく生きることについて、自分のこととして捉え、考えているか。

4. 板書計画

花に寄せて	感想	「すごさ」	星野さんは多く の人のように感 じているのか？	星野さんにとっての生きる喜びとは？
		「苦悩」	星野さんの作品が 多くの人からは感 動を与えているの はなぜ？	

《引用参考文献》

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科 道徳編 文部科学省
- ・ 新訂 新しい道徳1 東京書籍
- ・ 道徳の授業がもっとうまくなる50の技 山田貞二 明治図書
- ・ 中学校道徳授業アップデート 山田貞二 明治図書

授業実践の反省～研究協議より～

主体的に思考することを促す発問について

伊藤 萌衣 教諭

- ・最初に教材の感想を聞いたときに、「なぜ日の出前に狩りをしてはいけないのか」という発言があったが、これは重要な意見だと思った。これに触れることで、ガリューの行動が説得力のあるものなのかそうでないのか考えることができたと思う。そうすることで、「どちらに共感するか」という発問をより主体的に考えることができると思った。
- ・「自分だったら」という視点で考えるような発問がたくさんあって良かったと思う。
- ・「自分だったら、捕まるかもしれないのに説得できる？」の発問のときに数直線で表せても面白かったかもしれないと思った。（方向性が変わってしまうので、何とも言えないですが…）
- ・途中から「絶対にルールを守ること」についての拒否感が強くなりすぎて、意識が「自由」から離れていった子もいたのではないかと感じました。みんなの自由を守るために「ルール」があるということを、もう少し前面に出していても良かったのではないかと思います。
- ・（展開３）２人の自由の考え方についてでしたが、「どんな人」と聞いたので、若干、「人柄考察」的になっていたかも。
- ・（展開４）感想交流の発表で「ルールを守ってこそその自由」という発言が児童からあった。核心に触れるような発言だったので、その後の展開の中で生かせるとよかったかもしれない。
- ・（展開９）土台発問「きまりを必ず守る社会になったら…」～ガリュー（きまり）が良いのか悪いのかの展開になりつつあったので危うかった。なぜガリューが真面目なのか…本当の気持ち（推察ですが）に触れながら自由の本質に迫ってもよかった。→展開１２に繋げて「ルールを守ってこそその自由」
- ・話し合いたいことを問うのは効果的だと思います。「本当の自由とは何か」「きまりはあるとないどちらが良いのか」「王様はどうすべきだったのか」「良い自由と悪い自由」
- ・後半は、ガリュー、ジェラルルから少し離れても、子どもが話し合いたいと発言した内容で進めても良かったのではないかと思います。大変良い考えを惜しみなく発言する風土が良かったです。「それってどういうこと？」と、問い返したり、子どもの問いを板書してそのまま使うと、より主体的に思考できるのではないかと思います。
- ・「自由なのは悪いこと？」という揺さぶりで、子どもたちの思考にスイッチが入ったように見えました。

- ・児童の言葉を上手く拾い、発問にかえていてよかった。また、問い返しについても、話し合いたい内容について発言した児童の発言（「本当の自由」）を受けて、教師がさらに言葉を足して（嘘の自由）良かった。
- ・テンポの良いやりとりで、子供の考えをどんどん吸い上げているのが印象的でした。
- ・児童の「自由ときまりの真ん中がほしい」という意見が面白かったです。先生の「みんな自由の方がいいでしょ」という極端な投げかけも児童の考えを刺激する物だったと思います。
- ・児童の発言からの発問がスムーズは流れをつくってよかったです。
- ・この国の王さまにガリ्यूがなったらという発問は児童を揺さぶられるものでした。数値線での児童の変容も読み取ることができていました。
- ・児童の意見を引き出す、効果的な発問でした。

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

- ・数直線（気持ち）の変化がわかるようになっていて良かった。その変化を全体で共有できるように、数直線を周りに見せながら発表するよう促しても良いのではないかと感じた。（1人やっている児童がいて、とてもわかりやすかったので）
- ・ワークシートに、簡単で良いので、振り返ったときに「何の交流だったか」わかるような文言があればいいかなと思った。（規則や決まりに厳しい社会になったら...みたいな）
- ・振り返りの視点をしっかりと提示したことで、子どもたちが迷うことなく自己評価を行うことができていたと思います。
- ・短い時間の中で、子どもたちはしっかり自分の考えを書くことができていた。本時の内容やねらいを理解できていた。
- ・3つの項目があったので、子どもたちも取り組みやすそうでした。
- ・子どもによる自己評価とは、振り返りのことでしょうか？ワークシートや端末を使い、最後振り返る時間を設けることが大切だと考えます。今日の授業では、話型を示していたことで書きやすかったのではないかと思います。
- ・見取りとは、授業構成のために、誰がどんな考えを持っているか、考えが変わったのか、その後の授業展開で使えるため有効だと思います。話し合いやワークシートが手段に必要だと思います。
- ・評価のための見取りについては、勉強不足でわかりません。
- ・児童が次の発言者を指名するスタイルだったが、1時間を通してバランス良く当てられていたように思った。日頃からの指導の成果が出ていて良かった。
- ・給食の話題や極端な自由の例で自由について考えさせるのは、身近に捉えられて良かった。

- ・最初の自由と終末の自由で児童の変容を読み取ることができる授業でした。
- ・ワークシートがシンプルで記入しやすいものでした。振り返りも何について書いてくのか明確でわかりやすかったです。

授業展開、教師の手立て等について

- ・規律がしっかりしていて、「～さんの意見もらっていい？」と児童が友達に聞く場面があった。友達の考えをよく聞き、互いに尊重できる学級になっているのだと感じた。
 - ・ルールに厳しい社会・ルールのない社会といった、両極端の立場で考えさせることで、子どもたちを揺さぶり、多角的に考える授業になっていたと思う。
 - ・多くの子が「自由」と「自分勝手・わがまま」についての線引きができていたように思うので、授業の狙いはしっかりと達成できたのではないかと思います。
 - ・テンポの良い展開で子どもたちも思考を巡らすことができていたと思います。振り返りまできっちり進めたので、とてもよかったと思います。お疲れ様でした。
 - ・前半、「ガリユーとジェラルルはどんな人」という人間性を問うよりかは、それぞれどんな考え方で、良いところとか共感できるところはあるか、考えを広げていくと良かったかと思います。
 - ・「話し合いたいこと」の問いで子どもたちからたくさん良い意見が出てきました。それを板書して、扱っていけると良いかと思います。
- 例) ○ジェラルル王子はどうすべきだったのか
- 自由なのは悪いこと？
 - 以下問いかえしなど
 - ・良い自由、悪い自由って何？常識の中でってどういうこと？
 - ・ルールの中にこそ自由があるってどういうこと？
 - 本当の自由ってどういうこと？
- ・後半は、少しジェラルルやガリユーから離れても良かったかなと思います。
 - ・子どもたちは、考えたことを大変積極的に発言しており、話しやすい風土が学級に作られているのが素敵でした。日常からペアやグループで対話することを大切にされていることがよくわかる素晴らしい授業を見せていただきました。ありがとうございました。
 - ・心の数直線を、前半と後半での変化がわかるように使い分けているのがおもしろかったです。
 - ・児童の意見を残す、黒板の使い方よかったです。

授業実践の反省～研究協議より～

主体的に思考することを促す発問について

川畑摩沙子教諭

- ・「なぜ、星野さんの作品は多くの人を感動させるのだろうか」はよい課題だと思う。ただ、それを「話し合ってみたいことや疑問はありませんか」で子どもたちから出させるのは難しいと思った。その発問の前に、「多くの人の感動」があるとよいのではないだろうか。
- ・星野さんのこれまでについて、教科書に載りきらなかった情報をまとめて提示していたことで、生徒の考えに深まりが生まれていたと思います。
- ・生徒の発言を温かく優しく受け止めまとめていく川畑先生の授業スタイルや、考えを深めるための問い返しがとても勉強になりました。・登場人物の状況を自分に置き換えて考えさせていた。「首から下が麻痺する」ということがイメージしにくいということもありながら、自分から発言することができた生徒が数名いた。
- ・生徒に課題を設定させる際に「疑問に思うことはないか。」という問いがあった。印象に残った場面を導入で交流し、板書していたので、その生徒の発言から広げていくことで、生徒の疑問が生まれたのではないかと考えた。
- ・終末に「自分の生きる喜びは？」という問いがあった。登場人物の生き方をもとに考えさせたのであれば、指導案に記載されていたように、「自分の心の弱さや強さ」「苦しみから得られる喜び」など、「よりよく生きること」について考える時間があれば良いと思った。
- ・展開前半の「感想をどのように…」の後に、「自分だったら？」と投げかけたが、あまり必要性を感じられなかったです。
- ・中心発問の後に、再度「感想をもらったときの星野さんの気持ち」について発問していたが、一度答えた内容なので、生徒はどう反応して良いか戸惑っているように感じました。
- ・終末の「自分にとっての生きる喜びは？」の発問で、しっかり自分事として考えることができたと思います。
- ・導入で星野さんの作品を提示したり、年表や検索した本人の写真を提示したことで、題材にスムーズに入り込むことができていた。
- ・思っていた以上に、発言する生徒が多く、意欲を感じることができました。
- ・導入前半までは概ね計画通りに進めることができていた。「多くの人に感動を与えたのはなぜか？」の主発問に対し、「生きようとする気持ちが伝わったから」という確な意見が生徒からあった。これを受けて展開後半に移行できたらスムーズだったのに、補助発問の「星野さんはどんな気持ちだったの？」で展開を後退させてしまったのが残念。
- ・終末での発問「自分にとっての生きる喜びって何？」は教材から離れて普段の自己の喜びに偏らせてしまったような気がします。「この教材から学び取れる、生きる喜びとは何か（例）生きることで大切なことは何か（例）」など、他の問いかけにすることで、ねらいに近い終末を迎えることができたのではないかと考えた。
- ・全体的に補助発問がやや多く、生徒の思考を一定方向に向けさせにくかったように感じました。

- ・テーマに「生きる喜び」を添えて発問を組み立てると、「何が星野さんにとっての生きる喜びだったのか」「そもそもなぜそこまで星野さん作品が多くの人に感動を与えるのか」等の発問に必然性が生まれたのではないかと思います。
- ・土台づくりとして、星野さんの「生きる喜び」に焦点を当てると、初めだった絶望的だった状況から、「なぜ立ち上がったのか」といった部分にも想像を広げ、「生きる喜びを獲得するヒント」を、星野さんの生き方から「好きなことを見つける」以外にも「家族の支え」「諦めず、できることをやってみる」等より広く学ぶことができたのではないかと思います。
- ・課題設定について、生徒たちに「疑問に思うことはないですか」と投げかけていて生徒が固まっていました。やはり生徒も、このような授業形態になれていないと、自分で課題を設定することは難しいなと感じました。授業の流れでは、感想を聞いてそのまま生徒に「疑問ってある？」と投げかけていたので、その前に疑問を考える時間があるといいかと思いました。またはそこまでに、生徒の感想で「あきらめないですごい」「自分だったらあきらめてしまう」などの言葉が出ていたので、そこから先生の方で「なんで星野さんはあきらめなかったのか」のように課題を作ってもいいかと思いました。諦めなかった生き方が、展覧会で多くの人を感動させたんだという流れにもっていけたら・・・？と思いました。
- ・絵を見せて、「この絵どう思う？」という質問に、「上手だ、すごい」という声も上がっていたので、「なんですかいいの？」と問い返しをして、「星野さんの絵が見る人を感動させたのはなぜか」という課題にもいけたかもしれません。
- ・生徒に課題を出させる以上、こちらの思い描いたような型にはまることの方が少ないと思います。最終的に「よりよく生きる」というテーマに向かって進んでいけば良いと思うので、そこにいたるまでの課題は予定とずれても良いのではないかとともに思います。「絵が感動を与えるのはなぜか」「星野さんはなぜ諦めなかったのか」「星野さんのすごいところは」など、どれを使っても星野さんの生き方を考えさせることはできるので、そこから『よりよく生きる』にもっていければ良いのかなと思いました。でも、教材分析や理解が大変だとは思いますが・・・。
- ・難しい技法で授業を作るのは大変だったと思います。お疲れ様でした。
- ・生徒の感想を取り入れ、導入の発問を少なくしたこと時間の余裕ができてよかったです。
- ・導入で「もし自分だったらどんな気持ちで天井を見つめるだろう」という発問で自分事として捉えることができていた。
- ・別紙資料を見せることで初期の作品と今の作品を比較し、生徒は苦悩や努力の跡などを感ずる効果的な資料だった。
- ・終末の発言で自分事として捉えることができていた。

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

- ・ふりかえり→交流の時間がしっかりと設定されていた。
- ・生徒の振り返りの中で大切なポイントを先生が引き出して、思考が深まっていたと思います。
- ・題材に興味関心がとてもあるクラスで、一人一人が個人思考やペア交流で自分の考えをもつことができていたと感じた。しかし、挙手での発表を促した際に発言する生徒があ

まりいなかった。導入でコミュニティーボールを使っていたので、そのまま継続して使用すると、より児童の声が聞けたのではないかと感じた。

- ・生徒のつぶやきを拾って、「絵が素直にすごい」といった考えを共有できたことが良かったです。そのように生徒の考えを見取れるように、ワークシートや、ペア対話を入れるとより教師による評価がしやすかったのではないかと考えます。
- ・途中で、予定を変更して最後の振り返りの時間を取るようになったことが良かったと思います。最後に自分事として考える時間は大事だと思います。
- ・生徒の発言を、黒板に記録していたので振り返りに役立っていたと思います。

授業展開、教師の手立て等について

- ・お忙しい中、指導案作成から授業公開までお疲れ様でした。山田先生の授業スタイルを取り入れた組み立て方がとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・難しい題材の中で生徒たちは自分の考えを持つことができていたと思う。
- ・「星野さん」「作品を見た人」「自分」の立場で考えさせ、多角的に考えさせることができていたと思う。
- ・授業の冒頭にあった「良いことを言わなくてもいいよ」という声かけで、生徒が安心して学習に望むことができたと思いました。
- ・課題設定の場面は、教師主導でさっと済ませて良かったのではないかと感じました。
- ・展開前半の「感想をどのように…」の場面では、もう一度本文で感想の内容を確認させると良いのではないかと感じました。
- ・挙手での発表は、躊躇する生徒が多いのかなと感じました。ロイロ等で書かせて提出する方が、より多くの意見を共有しやすいのではないかと感じました。
- ・展開後半がとんでしまって、思考ツールが使えなかったのは少し残念でした。
- ・最初の指導案から修正が加えられ、スムーズな展開が予想されたことがよかった。
- ・本時の課題は、「生きる喜び」に関わることで教師から提示しても良かったと考えます。今回の教材は感動できる内容でしたが、生徒にとって疑問に感じる問いを作ることが難しかったためです。
- ・授業を参観させていただくと、やはり「心の数直線」はあった方が良かったと思いました。初めの天井を見つめる星野さんの「生きる喜び」を視覚化し、その後多くの人から作品の反響をもらった星野さんの「生きる喜び」を再度数直線で視覚化し、その変化の背景には何があったのか問うと、もう少し活発に話し合えたのではないかと思います。
- ・初期の作品と今の作品を比較した感想は、不要だったのではないかと思います。
- ・たくさん考えさせられる時間でした。授業を公開いただきありがとうございます。
- ・生徒同士の交流がもう少しあると良いと思いました。3～4人の交流の場もありましたが、あまり話せていない子もいたり、今しゃべっていいのかなと伺っている様子もありました。
- ・グループで多くの考えが交流できていて良かったです。時間が可能なら全てのグループの考えなども聞いてみたかったです。
- ・生徒が考えやすいよう詳しく背景などを説明されていて良かったです。

第4章

成果と課題

1 研究内容について

（１）道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする発問～

児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問について

成果	○導入時での興味関心を高める発問の工夫や補助資料の提示が、子どもたちの主体的な思考につながることを確認できた。（第一小） ○テンポ良く問い返しを行うことが重要だとわかった。（第二小） ○山田先生の講話から、指導者側の教材研究が充実させられると、児童の発言をうまく拾い対話型の授業展開が出来ることを学んだ。（第二小） ○「自分だったらどうか」といった、自分ならばどのように行動するかを問いかけることで、自分事として考えられるよう促していた。（第三小） ○課題（話し合いたいこと）を児童生徒に考えさせることは、主体的に学習する姿勢につながるので、積極的に取り入れていくことができれば良い。（西小） ○多様な発問を授業の中で実践することで、効果的な発問を知ることができた。（江部乙小） ○行動など、見える部分から話題にし、その背景にある気持ちを問い（例：どんな気持ちかな？）さらに深い部分（例：何でかな？）を問うていくと価値にせまれるということを学んだ。（東小） ○多角的に思考するため、他の立場の人から考えさせる発問のつくり方は有効である。（東小） ○他者と話し合う場作りを増やし、コミュニケーションをしながら深めていくことができた。（明苑中） ○問い返しをすることで、子ども達を揺さぶることができていた。また、主発問が大切であることも確認できた。（開西中）
課題	●本時の課題は「児童」「教師」どちらが設定すれば良いのか。（題材によるとは思いますが。）（第三小） ●あまりにも極端な設定の教材だと、自分事として主体的に考えさせることが難しい。（西小） ●授業展開の中で「軸」を外さない発問の精度を上げることが必要かもしれません。（江部乙小） ●日々の実践の中で、せまりたい道徳的価値をおさえた上で発問を組み立てていくことをもう少し心がけていくべきだった。子どもたちのふり返りに、その価値が自然と書かれているような授業になるように改善していきたい。（東小） ●授業者が項目やねらいを理解して、焦点化した授業作り・発問作り（明苑中）
○導入時での興味関心を高める発問の工夫や補助資料の提示 ○問い返しの重要性、主発問の大切さ ○課題を児童生徒に考えさせる→主体的に学習する姿勢 ○価値へせまる発問（見える部分→気持ち→深い部分） ○他者と話し合う場作りを増やした。 ●自分事として考えるための教材文の妥当性・吟味 ●教材による自分事として考えさせる難しさ ●軸をはずさない発問の精度を向上させることが必要 ●道徳的価値をおさえた上での発問の組み立て ○教材研究の充実→対話型の授業展開 ○自分事として考えられる促し ●課題設定の主体（児童生徒？ 教師？） ●焦点化した授業作り・発問作り	

(2) 道徳科における評価の在り方

児童生徒による自己評価と教師による評価について

成果	○ワークシートの活用が子どもの自己評価や教師による評価に有効だった。(第一小) ○ワークシートや心の数直線の活用があったことで、児童の考えを具体的に引き出すことができた。(第二小) ○心の数直線の活用により、授業前と授業後で児童自身も自分の考えの変化に気がつくことができていた。(第二小) ○ワークシートを活用することで、児童の考えや変容を見取ることができていた。(第三小) ○振り返りの視点を明確にしたワークシートや心の数直線を活用することで、自己評価も教師の評価も正確に行えていた。(西小) ○様々な評価の方法、場面を実践できたことがよかった。(江部乙小) ○教師が「こうするといいよ」「これがいいね」というように価値づけないようにすることが大切と学んだ。(東小) ○振り返りの記入、交流。数直線やICTの活用で、後から見返したときに変化がわかるようになっていた。授業を通して、自分の考えたことをすぐに書き出せる生徒が多く、自分事として授業に参加できている生徒が多かった。(明苑中) ○ワークシートや心の数直線の活用により、子どもの変容などみとることができていた。(開西中)
課題	●ワークシートに書けない児童の考えをどう見取れば良いか。(第三小) ●ワークシートなどに残らない交流やつぶやきを拾い上げる方法があると、より正確な評価が行えるのではないか。(西小) ●個により自己評価は異なり、教師による評価ともずれを生じることがあるかもしれません。そのずれをいかに小さくするのが大切だと感じました。(江部乙小) ●「児童一人一人の人間的な成長を見守り、児童自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにする」といった考え方は理解できるが、1年間を通して担任がどのような働きかけをしていくとよいのかという具体について見通しが持てていない。(東小) ●振り返りの項目を狙いに即して焦点化する。(明苑中)
○ワークシート・心の数直線～子どもの自己評価や教師による評価に有効 - 児童生徒の考えを具体的に引き出すことができる。 - 授業前後で児童生徒が自分の考えの変化に気づくことができる。 - 児童生徒の考えや変容を見取ることができる。 - 自己評価も教師の評価も正確に行える。 ○教師が「こうするといいよ」「これがいいね」というように価値づけないようにすることが大切 ●子どもの心の内面を評価・見取ることの難しさを感じる。 ●ワークシートを書けない児童生徒の評価 ●ワークシートなどに残らない交流やつぶやきを拾い上げる方法 ●個により自己評価は異なり、教師による評価ともずれを生じることがある。 ●1年間を通して担任がどのような働きかけをしていくとよいのかという具体についての見通し ●振り返りの項目の焦点化	

(3) 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

成果	○ 滝川人権擁護委員の方を招いて、人権教室を道徳の時間で行った。(第一小) ○ 保護者や地域の人材活用は今年度はなかった? のでコメントできません。活用することの効果は大きいと思います。(江部乙小) ○ 研究授業の中で、生徒たちは教科書にある作者の作品を見ることで「すごすぎる」と大いに感動していた。その様子から、内容項目に関わる人材と実際に会う機会があり、その方の生の声等から学ぶことは大きいと考えられる。(東小) ○ 外部の方を招いての授業をしてもらうことができた。(開西中)
課題	● 活用できていないのが自身の現状です。(第二小) ● 有効活用した実践例などがあると取り入れやすい。(第二小) ● 学習に協力いただける地域人材について、分野ごとのデータベースがあるとよいが、実際に整備するのは難しいですね。(西小) ● タイムリーな人材活用はやはり難しいと思います。(江部乙小) ● 滝川市として、道徳の指導で協力いただける地域の人材を少しずつでもリストアップできると、実現できるかと考える。地域の人材を活用したい教員はある程度いるかと思うが、担任一人の力でそれを計画することがなかなかできていない。(東小) ● 情報モラルや喫煙防止教室など、地域の協力を得られる外部講師の利用を積極的にしていきたい。(明苑中)
	○ 内容項目に関わる人材と実際に会う機会があり、その方の生の声等から学ぶことは大きい ○ 外部の方を招いての授業を行った。 ● 有効活用した実践例 ● タイムリーな人材活用 ● 外部講師の積極的な活用(情報モラルなど) ● 地域人材について、分野ごとのデータベース ● 道徳の指導で協力いただける地域の人材をリストアップする

2 研究推進体制・方法等について

(研究会議、実践発表・「研究のまとめ」発刊による研究成果の還流・発信等)

成果	○ 指導案検討を会議の中で十分行うことができ、そのことで研究授業を見る視点もより深まった。(第一小) ○ 中学校の授業も参観できたことで、発達段階に応じた指導方法を知ることが出来た。(第二小) ○ 山田貞二先生の公開授業による研修は昨年に引き続き滝川市の道徳教育をよりよいもの(児童の道徳心を豊かにしてくれるもの)だったと思う。(第三小) ○ 実際の授業を見させていただくことで、学級や授業の雰囲気を感じることができた。児童の小さなつぶやきなども聞けたので、実際に見に行くことへの重要性を感じた。(第三小) ○ 山田貞二先生による授業公開・講話、研究員による授業公開という学びの機会は大変効果的である。(東小)
----	---

課題	●どうしても授業者への負担が大きく、申し訳なかった。(第一小) ●いろいろな指導方法を学ぶためにも、いろいろな方に講演会や授業等を行っていただきたい。(第三小) ●授業者の負担が大きすぎると感じた。(事前、事後、プレゼン発表など)(第三小) ●授業を行う方の負担が大きすぎる。(西小) ●研究員として学ぶことはできているが、各学校への還流方法については課題がある。公開授業ののち、研究発表までしていただくこと自体は大変有意義であり、用意していただいている先生方には敬意を表することではあるが、それを多くの先生方に見ていただくことに難しさがある。(東小)
	○指導案検討→研究授業を見る視点の深まり ○小学校の先生が、中学校の授業を見る→発達段階に応じた指導方法を知る ○山田貞二先生の公開授業による研修は効果的だった(児童の道德心を豊かにしてくれた) ○実際に見に行くことへの重要性(学級や授業の雰囲気を感じることができた) ○山田貞二先生による授業公開・講話、研究員による授業公開という学びの機会は大変効果的 ●授業者の負担が大きい。 ●いろいろな方に講演会や授業等を行ってほしい ●各学校への還流方法について(公開授業・研究発表を多くの先生方に見ていただくことの難しさ)

3 その他

各学校における道德教育の充実に関わって

(「道德科」の日常実践の充実、家庭や地域との連携、授業公開等など)

	・研修会(示範授業・講演会)については、次年度以降は必要ないと思う。山田先生の考えはすでに伝わっており、学校や教育課程への負担も大きい。(第一小) ・校内の先生方にも研究授業を参観していただいたが、それ以外に推進委員として情報発信をする機会がつかれず悩んだところがありました。(第二小) ・道德科の授業作りや、評価等の共通認識を学校で測っていききたい。(第三小) ・1年生は文書が書けるようになってきたので、少しずつワークシートを活用して評価できるように取り組んでいる。(第三小) ・校内で授業を公開し合うことは可能だが、「家庭と地域との連携」については、確かに子どものよりよい学びを考えると良い機会になると思うが、どのようにすれば連携していけるのかわからない。(東小)
	外部講師を活用した研修会(示範事業・講演会)について ・本市において、道德の授業づくりや評価の在り方について教師全体に一定の共通理解が進んでいるかを踏まえて、研修会の実施やその内容について検討することが必要。 各学校における推進委員としての情報発信 ・道德科の授業作りや、評価等の共通認識を各学校で測っていくことが必要。 家庭や地域との連携について ・通信や懇談会、PTA活動を通して連携を深めていくことが必要。 ・地域人材の有効な活用について情報交流をしていく。

参考・引用文献

- ・ 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領 解説—特別の教科 道徳— 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領 解説—特別の教科 道徳— 文部科学省
- ・ 平成 27 年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成 28 年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成 29 年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成 30・31 年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 令和 2 年度 小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 令和 3 年度 小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の充実に向けて 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の評価について 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード 光村図書出版株式会社
- ・ 道徳科「深い学び」のための内容項目ハンドブック 日本文教出版
- ・ どうとくのひろば 日本文教出版
- ・ 中学校 道徳の授業がもっとうまくなる 50 の技 明治図書出版
- ・ 中学校道徳授業 発問言葉かけ大全 明治図書出版
- ・ WHY でわかる HOW でできる 中学校道徳授業アップデート 明治図書出版
- ・ 平成 22 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 23 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 24 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 25 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 26 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 27 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 28 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 29 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成 30 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 元年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 2 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 3 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 4 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 5 年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会



なかなおりマーク

滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和6年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」 ～ 主体的・協働的な学習を通して～

発 行 令和7年3月
発行者 滝川市教育委員会・滝川市道徳教育研究会議
所在地 〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号
滝川市教育委員会 教育総務課
TEL 0125-28-8042 FAX 0125-24-1024